

[環境化学] 投稿規定

(目的と構成)

1. 「環境化学」は環境と化学物質に関わる学問分野の学際的調査・研究の推進及び知識の普及を図り、化学物質による環境汚染の防止及び環境保全に寄与して学術文化の発展に貢献することを目的とする。
2. 本誌は一般社団法人日本環境化学会が発行するオープンアクセス誌(2020年1月1日以降)であり、J-STAGEで公開されている。

(投稿資格)

3. 投稿者は本会会員とする。ただし、編集委員会において認めた場合はこの限りではない。

(原稿の内容と分類)

4. 原稿は環境化学に関する内容のものとし、報文・総説・研究ノート・調査報告・技術報告・企画論文のいずれかのカテゴリで投稿する。
 - ・ 報文：新規性および独創性の高い内容を含み、環境と化学物質の関係解明に資する有意義かつ高価値の論考をまとめたもの。
 - ・ 研究ノート：報文に準ずるもので、それに近いあるいは将来的に報文レベルへの発展が見込まれる内容をまとめたもの。
 - ・ 総説：環境と化学物質に関する既知の研究成果を包括的にまとめ、現時点の課題とその解決策および将来展望等を解説したもの。
 - ・ 調査報告：環境化学物質による汚染現状や生物濃縮の態様等に関する情報およびデータを含み、結果自体の有用性を重視したもの。
 - ・ 技術報告：有害物質による汚染軽減と改善策および測定機器の開発について、技術的かつ実用的に有用な情報を含むもの。
 - ・ 企画論文：学生および34歳以下の若手研究者が主体的に執筆・投稿するもの。
5. 他の出版物にすでに発表したもの、または営利上の宣伝に関するものは受理しないものとする。

(原稿の採否)

6. 原稿の採否は、報文および総説については複数の査読委員の審査を経て、編集委員会において決定する。研究ノート、調査報告および技術報告については適切な査読委員の審査を経て編集委員会において決定する。上記の分類に入らない企画論文については、編集委員会の審査と判断に基づき決定する。

(原稿の訂正)

7. 編集委員会は、査読委員の意見に基づき、著者に原稿を返送のうえ書き直し、または訂正を求められることがある。その場合、返送の日から3ヶ月を経ても再提出されないときは、著者が原稿を取り下げたものとみなす。

(執筆要領)

8. 原稿は次の要領に従って執筆するものとする。
 - (1) 原稿は A4 判用紙縦に横 38 字縦 40 行程度で作成し、図表を含め総説、報文は、総文字数が 15,000 字以内、研究ノート、調査報告および技術報告は、10,000 字以内となるようにすること。なお、図表は組み上がりおよそ 1 段（縦横 1:1 程度の大きさ）で 500 文字相当、2 段（縦横 1:2 程度の大きさ）で 1,200 文字相当程度となる。
 - (2) 原稿は電子投稿システム（J-STAGE 「環境化学」 URL : <https://www.jstage.jst.go.jp/browse/jec/-char/ja>）を用いて提出する。投稿時は PDF 形式で提出し、審査完了後に最終原稿を Microsoft Word 形式等で提出する。アップロードできるファイルの容量は合計で 20MB 以下とする。なお、図表については Microsoft Word, 同 Excel, 同 PowerPoint, PDF, JPEG も必要に応じ利用可能である。インターネットから電子投稿システムを用いた投稿を原則とするが、インターネット利用等に困難のある場合は事務局に連絡すること。投稿に当たっては電子投稿システム利用要領を参照すること。
 - (3) 電子投稿システムへの投稿時には、希望する査読候補者を 3~5 名入力すること。なお、利益相反（経済的な利益関係・共同研究関係・競合関係）の観点から適切でない候補者は除くこと。
 - (4) 原稿の 1 ページ目には表題、著者全員の氏名、勤務先、住所、電話番号、FAX 番号を記入すること。表題、著者全員の勤務先、住所および氏名は、和文と英文の併記とすること。主著者に * をつけること。

- (5) 報文および研究ノートの執筆順序は、英文要約 (Summary)、はじめに、方法、結果、考察、謝辞、和文要約 (和文原稿の場合)、文献、表、図及び写真の説明 (Figure Legends)、図および写真の項目順に執筆すること。和文原稿の場合であっても、図表のタイトルおよび説明は英文で執筆すること。
- (6) 原稿には、3~5 個のキーワードを Summary の後に記入すること。キーワードは、固有名詞以外は小文字表記にすること。
- (7) 報文、総説、研究ノート、調査報告、技術報告および企画論文には、英文要約 (Summary, 300 語以内) および和文原稿の場合には、和文要約 (要約、500 字以内) を添付すること。
- (8) 文字は、当用漢字、新仮名使いを用いること。
- (9) 行を改めるときは、行の始まりを一字あけて書きはじめること。
- (10) 原稿にはページ番号、行番号を付記すること。
- (11) 英文字、ギリシャ文字、数字、記号は原則として英数字フォント (1 バイト文字) を使用する。また一般的なフォントを用いることとし、特殊なフォントの利用は避けること。大文字、小文字、斜体、上付き、下付きなどの区別を明確にすること。
- (12) 単位は特に指定する場合 (別表 1) を除き、原則として SI 単位系により記載する。単位は、原則、半角文字とし、数字の後ろに単位をつける場合は、半角スペースを入れること (°C と % のように全角文字とする場合は、この限りではない)。
- (13) 一般的でない記号あるいは用語 (外来語を含む) を用いるときは、注釈をつけること。
- (14) 引用文献は下記の凡例に準じ、著者名、表題名、雑誌名、巻、ページ、発行年および利用可能な場合は doi の順に、単行本の場合は、引用箇所の著者名、表題名、ページ、本の表題名、本の編 (著) 者名、発行所、発行所の所在地、発行年の順に記入すること。
- (15) 英文の著者名は、ラストネームの後ろにカンマ (,)、ファーストネームはイニシャルにする。著者が複数の場合は、間にカンマ (,) を入れて、最後の著者の前に and を入れる。著者名の後ろにコロン (:), 表題名と書名の後ろにピリオド (.) を入れ、その他の各項目の間にすべてカンマ (,) を入れること、単行本の書名には、「 」 (和書) または “ ” (洋書) をつけること。
- (16) 発行年は西暦を用い、[年] の字は入れない。

(17) 英文雑誌名はイタリック表記、巻号はボールド表記とすること。通しページでない雑誌の場合のみ号数を入れること。なお、インターネット情報を引用する場合、当該 URL とアクセス日を明記すること。

[文献の記入例]

- 1) 遠藤智司:PFAS の分配・九州特性に基づく環境動態の理解に向けて, 環境化学, **36**, s9-s17 (2025)
(DOI: <https://doi.org/10.5985/jec.36.s9>).
- 2) Kadokami, K., Tanada, K., Taneda, K. and Nakagawa, K.: Novel gas chromatography-mass spectrometry database for automatic identification and quantification of micropollutants. *J. Chromatogr. A*, **1089**, 219-226 (2005) (DOI: <https://doi.org/10.1016/j.chroma.2005.06.052>).
- 3) Behera, S.N., Xian, H. and Balasubramanian, R.: Human health risk associated with exposure to toxic elements in mainstream and sidestream cigarette smoke. *Sci. Total Environ.*, **472**, 947-956 (2014) (DOI: <https://doi.org/10.1016/j.scitotenv.2013.11.063>).
- 4) 安原昭夫、金子 実 : 廃棄物の安全管理, pp.100-107, 「研究のためのセーフティサイエンスガイド」, 東京理科大学安全教育企画委員会編, 朝倉書店, 東京 (2012).
- 5) Friedlander, S.K.: Convective diffusion: Effects of finite particle diameter and external force fields. pp58-93, "Smoke, Dust, and Haze: Fundamentals of aerosol dynamics, 2nd edition". Oxford university press (2000).
- 6) 環境省 : 「生物応答を利用した排水管理手法の活用について」に関する意見募集結果の概要, http://www.env.go.jp/press/seibutsu_conf06/ref02.pdf, (2025 年 1 月 13 日アクセス) .

(18) 図 (A4 判の用紙に入る大きさ)、写真は十分な解像度 (製本印刷時に 300dpi 以上となる解像度) で鮮明に作成すること。

(19) 図、表、写真には、必ず番号と表題 (英文) を付けること。

(20) 図、表、写真はすべて、刷り上がり時 A4 の 2 段組み片側、両側、もしくは 1 ページ全面の 3 種類のいずれかに適合するサイズで作成する。いずれのサイズの図、表、写真として扱うかを各図に対して著者が指定すること。上記の 3 サイズいずれかに適合しない図表は原則として受理しない。

(21) 表は上記(19)項の印刷時の指定サイズにおいて、本文と同様のフォントサイズおよび行間となるよう作成する。

(22) 図、表、写真の挿入位置は編集委員会に一任すること。

(著者校正)

9. 著者は校正用電子ファイルを受領後、締切日までに校正を行い速やかに返却するものとする。

(別刷および原稿 PDF ファイル)

10. 別刷は著者の申し出により印刷され、本会の規定に基づいて著者が料金を払うものとする。

(著作権)

11. 本誌に掲載された原稿の著作権は著者に帰属するものとする。論文は、クリエイティブコモンズの国際ライセンス（以下 CC ライセンス <https://creativecommons.jp/licenses/>）の条件下で掲載される。

(1) 著者（連名の場合は投稿者）は、論文の掲載が決定した時点で CC ライセンスの種類を決定し、CC ライセンス通知書兼出版権供与承諾書を編集委員会事務局宛に提出する。なお、論文掲載後に CC ライセンスの種類の変更ができないことに留意する。

(2) 著者は、次の CC ライセンスの中からその種類を決定することができる。

① BY（表示）、② BY-SA（表示- 継承）、③ BY-NC（表示- 非営利）、④ BY-NC-SA（表示- 非営利- 継承）、⑤ BY-NC-ND（表示- 非営利- 改変禁止）

(出版権)

12. 本誌に掲載される原稿の出版権は本会に帰属するものとする。

著者（連名の場合は投稿者）は、論文の掲載が決定した時点で CC ライセンス通知書兼出版権供与承諾書を編集委員会事務局宛に提出する。

13. 本誌の投稿・掲載料は無料である。

(コンプライアンスに関する注意)

14. 人に関する試料を扱った論文の場合、著者の所属する機関または外部の倫理審査委員会等の承認を得ていることを明記すること。また、哺乳動物等を用いた動物実験を扱った論文においても、著者の所属する機関または外部の動物実験に関連した委員会等の承認を得ていることを明記すること。

15. (人工知能 (AI) 支援ツールの使用)

2023年2月の出版倫理委員会 (COPE) による見解表明に従い、本誌において人工知能 (AI)

ツールは論文の著者または共著者として認めない。また、AI を著者とする引用を認めない。原稿の執筆や図表の制作およびデータ収集・分析において AI や AI 技術を使用した場合は、AI ツールの種類と使用目的を、以下の例を参考に、最初の論文投稿時の原稿の最後部に明記すること。

- ・ 本研究はその作成段階において、〇〇をすることを目的に、△△（具体的な AI ツール名）を使用した。

（経過措置）

16. 2026 年 3 月 20 日より適用する。ただし、本規定発効以前に投稿された報文等については、審査・掲載等が完了するまでは旧投稿規定（2018 年 9 月改定版）の相当項目を準用する。

（適用期日）

17. この規定は、2020 年 1 月 1 日から適用する。

1992 年 10 月 1 日一部改定

2007 年 10 月 1 日一部改定

2010 年 2 月 1 日改定

2011 年 3 月 24 日一部改定

2014 年 6 月 23 日改定

2014 年 9 月 22 日一部改定

2018 年 9 月 20 日一部改定

2026 年 3 月 20 日一部改定

（事務局連絡先）

〒305-0074 茨城県つくば市 3-18-7 サンガーデン高野台 103

一般社団法人日本環境化学会 編集委員会事務局

TEL 029-886-3185

FAX 029-886-3186

電子メール edit@j-ec.or.jp

別表1 本誌における単位表記

以下の単位は「環境化学における単位の例」の表記に従うものとする。

本誌における単位の例	相当する他の表記の例
L	ℓ、dm ³
μg/g等（複雑な場合等は右の例も可）	μg・g ⁻¹
分子イオン表記の例：M ⁺	M ⁺ ・